広報
さめがわ 11

平成7年 No.503

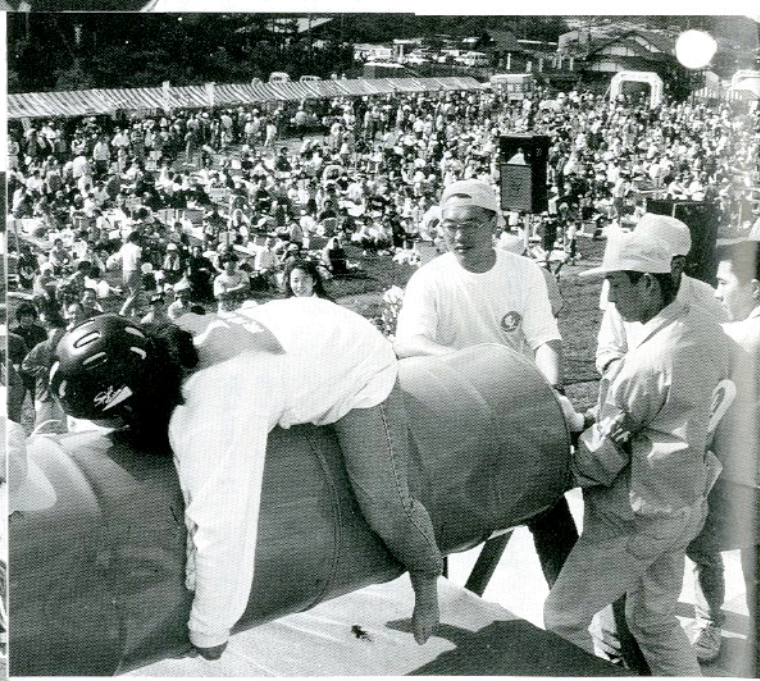
発行／編集　鮫川村総務課　〒963-84 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39の5 TEL(0247)49-3111　印刷／佐藤印刷所



大盛況の高原の鮫川 うまいもの祭り

鮫川牛のバーベキューに舌鼓





イベント1番人気の人間バーベキュー



▶人間バーベキューの準決勝では地酒「やまぶき」を哺乳瓶で早飲
▲壮烈な演奏の「強滝太鼓」

二度と繰り返してはならない戦争

戦後５０年に語り継ぐ



昭和二十年八月十五日、第二次世界大戦が終わりました。五十年過ぎた現在では、食糧不足で苦しみ、また命をおとしていった事実が忘れ去られようとしています。しかし、戦争が極めて悲惨なものであり、永久に繰り返してはならないことだと、子子孫孫に語り継がなければならないのではないでしょうか。

今月の「広報さめがわ」は、戦場に赴き、祖国のために戦った方々、夫、肉親を亡くした方々の戦争体験をお伝えします。戦後五十年、皆さんの心にも平和を叫ぶ声が響きますように…。

女たちの悲惨な戦争

関根　トハ さん（西山字菅田）



悲しい体験を遺影を胸に話す関根さん

私は十八歳で結婚しました。当時夫は、湯本の炭坑に出稼ぎに行っており、家では葉たばこ養蚕、米を作っていました。

夫は二十一歳のとき徴兵検査を受けていましたが、召集令状がきたのは昭和十七年三十三歳のとき、私は三十一歳で、小学五年生の女の子を頭に五人の子どもがいました。一番下の男の子は、ヨチヨチ歩きで、出征していく夫に無邪気に旗をふっていました。

夫は、海軍に編入され横須賀に向いました。葉たばこを作っていたので収納が終わった十二月に横須賀まで夫に会いに行きましたが、夫はすでに南方へ出航していました。戦争が激しくなった昭和十八年、夫からはがきが届きましたが、船に乗っているというだけで、場所などは一切書いてありませんでした。

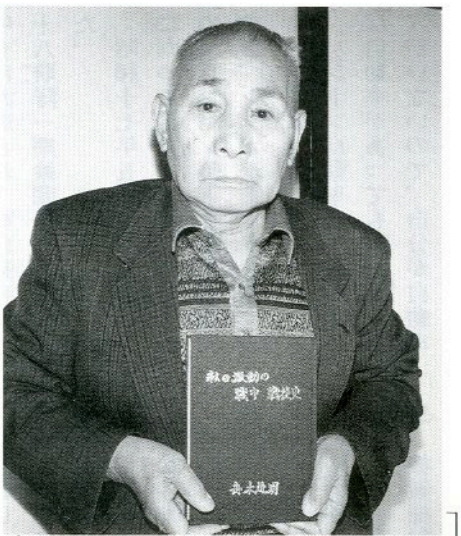
戦争が日に日に激しくなり、ちょっと体の弱い男の人も戦地に行ったので「自分だけが苦しいんじゃない」と自分にいいきかせがんばりました。五人の子どもをかかえ、一番大変だったのは食糧でした。米やさつまいもなどを作っても割当があって供出させられ、配給だけを当てにする本当に苦しい日々でしたがお国のためとがんばりました。

昭和二十年八月十五日終戦をむかえ、夫はいつ帰るかと待っていましたが、十二月に、戦死を知らせる一枚の紙切れだけが届きました。夫の死を信じられずに、ぼう然とする間もなく、子どもたちを育て、生きることに必死でした。今振り返えるとよく生き抜いたと思います。

銃後の守りに苦しい日々を送った私たち女にとっても、戦争は二度とあってはならない。そして子孫にもこの悲しみを経験させてはならないと思います。

生き残った者が後世に伝えなければ

舟木　近明さん（赤坂西野字石ノ花）



舟木さんは、平成２年７月に「私の激動の戦中戦後史」を発刊されました。海軍志願兵として横須賀海兵団に入団。本書は、ミッドウエー攻撃、南方戦線の模様、原爆投下やポツダム宣言受諾など終戦の混乱期の様子、復員後の生活などが詳細に記されています。歴史民俗資料館にも寄贈されました。

戦争とは、悲惨の極みであります。二度とない青春時代も郷里や父母兄弟とも離れて遠く戦場の異国の地の果てに、祖国のためにと何の疑念もなく、悪戦苦闘の末に死と生との紙一重の極限をさまよい、国の安泰と必勝を信じ、尊い生命を捧げた数多い人々。

資料によれば、人的被害は、軍人軍属の戦死者が陸軍約百八十三万人、海軍約五十七万人、戦傷病者十万人、空襲などによる一般市民の死者七十万人、合計三百二十万人以上となり、満州事変を含めた総軍事費は、当時の金額で七千五百九十一億二千四百五十万四千円の驚く数字となっています。

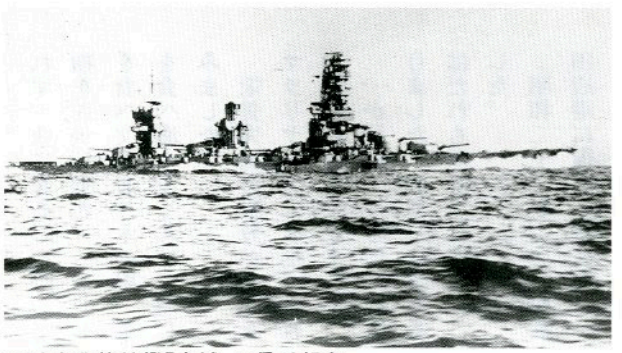
戦後になって識者により、日本帝国の根本的敗因は数限りなくあるとしても、先ず第一には、その戦争計画の無謀極る失策であったといわれていますが、長い苦難の果てに国民が得たものは一体何んであったか、三百二十万人にも及ぶ人命の損失、膨大な犠牲、巨大な戦費のほか、占領中の満州や中国、南方諸地域はもとより、台湾、朝鮮、樺太千島などの領土を放棄する結果となりました。

それに加えて、外地からの軍人軍属、居留民約七百万人の復員引揚げが行われました。幾歳月をかけての苦難の嵐、これが敗戦日本の現実の姿でした。

昭和二十年八月十五日暑い暑い真夏の正午。

私たちは翌八月十六日午前十時ころ、南方ハルマヘラ島カウ地区で、折からの強いスコールを完全武装の全身に浴びて、全員整列して隊長の命令伝達を受けていました。

だれ一人として夢想だにしていなかった事が現実に伝達されたのでした。全員不動声なく悔し涙が無限にあふれ、強いスコールの雨と共に全身をぬらし、だれも吾を忘れて立ちつくしていましたが、やがて解散。それぞれの宿舎に入って、次の命令を待っていましたが、連日間断なく飛来した敵の機影もなく、すべてを運命のきずなに託して戦闘以外のある種の不安に抗すべく、各隊員は身辺の整理と、今後の対策に対処していたように思われました。



新兵卒業後戦艦「山城」に乗り組む

兵器弾薬は処分され、自活の道を講ずべく農耕の毎日が続きました。歳月の流れは遅いようで意外に早く感じられ、昭和二十一年六月二日、母国和歌山県田辺港に無事帰国したのでした。

廃虚の中を郷里に帰ってから五十年、世界の奇跡ともいわれる経済成長を築き上げました。

これは日本古来の伝統的な精神と寛容にして敬けんな日本人であったからであると思います。

第二次世界大戦を経験し、その貴重な体験から多くのことを学び、これらの世代を真剣に生きた人の政治、経済、文化、教育などの汗と涙の結晶が現在に至る平和と繁栄の源であると思われます。

しかし、現今の世相は平和すぎて、豊かさすぎて、大事な心の豊かさを失い、利己主義に走る世の中と思われます。

戦後五十年に至りながらも、過去の歴史は正しく、真実であり、決してテレビなどのドラマと混同し、同一視してはならないと思います。

私たちの日本は、今後再び戦争は繰り返してはならないと思うのであり、事件も戦争も必ず原因があって勃発するものです。

これらの歴史的事実を、生き残った者が責任をもって、後世のために伝えなければならないと思います。



中国青島敵前上陸のころ（昭和13年）

孫たちへの伝言 …… ①



孫の勉さんに戦争の悲惨さを話す政利さん

二度と繰り返してはならない戦争

円井　政利さん（赤坂東野字広畑）

昭和十七年一月二十二日召集され、大阪に集合し、ろのわ部隊に入隊しました。その後広島県宇品港を出帆し、上海に上陸、中支に派遣され、軍自動車第二十八聯隊一期検閲が終わりました。

昭和十七年五月、南方ジャワに向って出発、台湾、ベトナムのバレンバン落下傘部隊基地に参集、シンガポールを経て、ジャカルタに上陸しました。

バンドン自動車二十八聯隊には自動車があっても運転できる人がいないので、自分が自動車隊に配属されました。

昭和十八年、スラバヤ、インドネシア人の兵補を教育するために転属され、自動車二九一小隊を編成し、アンボンに上陸、ニューギニア島、ハルマヘラ島では言葉が通じませんでした。しかし、心は互いに通じ、手話で会話しました。

昭和十九年、戦局が悪化して食糧が届かなくなりました。ハルマヘラ島は、鮫川村の二倍くらいの面積で、土もなければ、水もない。家は洞窟で、毎日爆撃、機銃掃射で一歩も外には出れず、夜になるのを待って食い物をさがし歩き、ヘビやトカゲを食べ文字通り木の根、草の葉を食べ海水をくんで煮沸して飲みました。

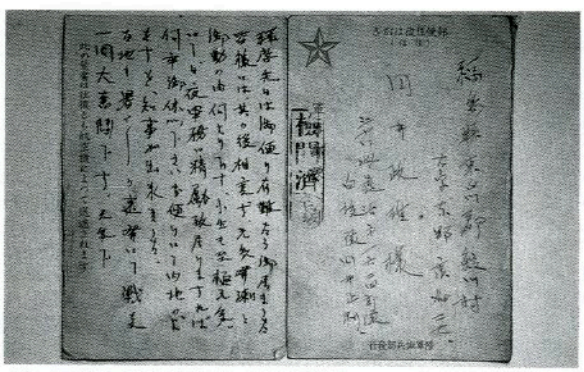
栄養失調と疲労がかさなり、マラリヤ、デング熱で倒れていく戦友を何人も見ました。

一か月後、この島で終戦を知りました。初めて体験する敗戦はだれもが信じられないことでした。

昭和二十一年六月、和歌山県田辺港に復員しました。

戦後五十年、今も当時のことを思い出すたびに、「二度とあのような戦争は繰り返してはならない」と思うばかりです。

今は、こうして人生を語ることができ、幸せに思います。


ジャワ島から自宅にあてたはがき

戦争体験を聞いて

円井　勉さん（鮫川中学校二年）

ぼくの祖父は、戦争体験者です。テレビで戦争の番組みがあるとよく戦争の話をしてくれます。

祖父は二十一歳の時に台湾に行ったそうです。二十一歳の若さで戦争のいやなつらい体験をしたのでかわいそうだと思いました。

戦争に行くことを命令される時「赤がみ」という召集令状がきたそうです。その紙がきた時は、国のために尽くすことができるということで喜ばなければならなかったようです。祖父もその紙がきたとき、辛い気持ちと喜びとが同時にこみあげて複雑な気持ちになったそうです。

台湾に行っても住むところがなく洞窟で生活して、毎日のように、爆撃、機銃掃射で逃げ回っていたそうです。戦局は、悪化し食糧不足その上祖父は、マラリア熱にかかりあやうく命をおとす状態におかれました。

祖国のために尊い若い命を亡くされた戦友の冥福を心からお祈りいたします。

祖父は、昭和二十一年六月に復員しました。戦争が終わり祖父にこんなことを聞いているうちに、祖父たちは生と死の間に身をおいて、苦労したんだなあと思いました。それと同時に、平和な今の時代に自分が生活できることを幸せに思います。

今は、食べ物に不自由することはありません。あたたかくむかえてくれる家もあるし何も苦労はないと思います。ぼくがときどき食べ物を残すと、祖父に「米一粒でも無駄にしては、いけないよ」といわれます。その意味がこの話を聞いてよくわかりました。これからは、食べ物を粗末にせずちょっとのことで不平、不満を言ったりしないようにしたいと思います。うちの祖父は、数少くない戦争体験者の一人です。

若い頃、苦労した祖父の孫である僕は、祖父を大切にし長生きしてもらいたいと思います。

世界の平和を願う

大竹　保さん（渡瀬字青生野）



酷寒のシベリアでの捕虜体験を伝える大竹さん

昭和十二年日支事変が起きました。激動の七月徴兵検査に合格しましたが、合格通知書には第二補充兵に編入とありました。「兵隊をのがれた」と思いました。召集されるまでは銃後の守りと補充兵教育に毎年模擬動員で棚倉小学校に召集され教育を受けていました。

昭和十八年九月、教育召集のため若松東部二四部隊に入隊しました。二十七歳で初年兵は精神的に辛く、若い現役兵の気合の入った「ビンタ」は悔しかった。

昭和十九年二月二十五日夜十時ころ、武装し若松の兵舎を出発しましたが、どこに行くのか知らされませんでした。汽車の鎧戸を締めたまま北海道の小樽に着きました。小樽での六日間の弾薬、食糧の積込勤務は重労働でした。その後、赤くさびた古い貨物船で小樽港を出航しました。甲板に出て小樽港を眺め、「この船で二度と帰ることができないのか」と思い、忘れることのできない淋しさでした。

船内では班長が命令受領の報告で、さきにマッハ島に向った貨物船が魚雷を受け沈没したとのことでした。救命胴衣を頼りに、次は我々の船かと思いましたが、無事千島のシンシル島に着きました。シンシル島は海軍の観測所と鯨の缶詰工場がありました。五か月間警備にあたり七月末ウルップ島に移り、約一年間食糧不足に苦しみました。

昭和二十年八月十五日の戦争終結の報が伝わりました。「日本が負けるはずがない」と言う人もいました。戦争が終わり、すぐに帰れると思いました。ソ連参戦で我々はどうなる。無条件降伏、日一日と心配はつのるばかりで、将校も下士官も顔色が変わってきました。二日目だったかソ連兵が上陸し、四日くらい過ぎて武装解除が行われました。千島で二か月余ソ連兵に使役され、十月末ソ連の輸送船に乗せられ、「日本に帰るので送って行く」と言われましたが、着いたところはシベリアでした。

酷寒の地で捕虜としての第一歩が始まりました。古臭い収容所は囚人が捕えられていたようなところでした。夜は南京虫や風に悩まされ、毎日少ない食事と重労働と厳しい寒さで、からだはやせ衰えました。耐えきれず、目前で死んでいった人も何人かいました。



昭和十八年若松東部二四部隊で（前列中央）

戦争のそしてシベリアの辛さは、計り知れない思い出であり悲惨な戦争を二度と繰り返してはなりません。いつまでも世界の平和を願います。

戦没者などの遺族に対する特別弔慰金支給のお知らせ

満州事変勃発（昭和６年９月18日）以後に死亡した戦没者などの遺族で、平成７年４月１日現在において同一の戦没者などにつき公務扶助料、遺族年金などを受給されていない場合、このたび制度の改正により、引き続き特別弔慰金として国債（額面40万円－10年償還）が支給されることになりました。

※支給の対象者

戦没者死亡当時の遺族のうち最も順位が上位の者一名です。

※請求受付窓口

請求者の住所がある市町村援護事務担当課で受け付けます。

※請求の期限

今回の特別弔慰金の請求期限は平成10年３月31日までの３年間となっています。この期限を過ぎますと時効により失権しますので請求漏れのないようご注意ください。

※問い合わせ先

詳しいことは、鮫川村役場住民課福祉係

☎４９－３１１１（内線３２）

戦争とおじいちゃん

吉田　貴子さん（鮫川中学校二年）



戦争の体験を孫の貴子さんに語り継ぐ吉田義一さん

ことしの九月二十日は冷たい風がふく晴れた日でした。早起きのじいちゃんが、朝食を食べ終え、いすから立ちながら、

「どれ、今日は友達の線香あげに行ってくるか。」

と言いました。おかあさんが、

「誰か亡くなったの。」と聞きました。じいちゃんは、

「五十年前の戦争で、戦死した同級生にだよ」

と言っていました。

その日、鮫川村の戦死した兵隊さんの遺族の方々による追悼式と慰霊祭が行われるので、じいちゃんが出席するということです。

話によると、私たちの村では、明治、大正、昭和の三代にわたって戦争に参加し、亡くなった方は、二百人あまりの多数になったということです。多くの若い兵隊さんが、日本は必ず勝つと信じながら、大陸に、また南の海で戦死された戦争とはどういうものか、私たちは話をきいたり、テレビでみたり、また本などで読むだけで詳しくはわかりません。しかし戦争というものは、敵対する人々を殺し建物その他すべての物を破壊する争いのことです。

私のじいちゃんも昭和十八年軍隊に入り、とてもきびしい訓練をうけて中国へ派遣され、戦争に参加しました。敵の兵隊から撃ってくる弾丸に身動きがとれず、三日、四日と土の穴の中で飲まず食わずでいた話もききました。その様な戦いのあけくれののち、日本は敗れてしまい、じいちゃんはその後、ロシアのシベリアへ捕虜として連れて行かれました。

それから三年間、寒さと空腹にたえながら野外の重労働をしたといいます。シベリアへ連れていかれた兵隊は六十万人ぐらいと言われますが、そのうち六万人の人々が寒さ、そして栄養失調で死んだそうです。戦争がおわっても捕虜となり死ぬ悲惨さは、戦争の生む最大の悲劇だと思います。

昭和二十三年、六年ぶりに日本に帰ったじいちゃんは、シベリアの生活は辛く話をしても誰にも信じてもらえなかったものだと、今も話しています。

そして、日本が行った戦争行為に、早くから反対していた方々が国内にいたということです。主に大学などの先生方、また勉強し知識のある人たちだったようです。しかしその人たちもそれがわかると、すぐ警察に逮捕され刑務所にいれられたり、先生の職から追放させられてしまったと伝えられています。

私がじいちゃんからきいた話は、ごく一部かもしれませんが戦争のないこの時代の日本に生まれてきた私たちは、幸せだと思います。

村の、慰霊祭から帰ったじいちゃんは

「あれから五十年か、平和とは有難いものだ。今日は、めい福をいのりながら戦友と会ってきた。線香の煙は濃かった、平和の香りだった。」

と話しました。

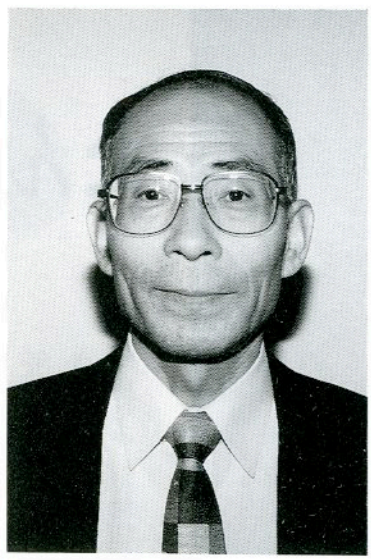
村役場前の、忠魂碑の前は、一日中、線香のにおいが漂っていたということです。



9月20日には遺族の方々などが出席し、241柱のめい福を祈りました

生きることができなかった人たち

高和　靖さん（鮫川中学校長）



満州在住時代のつらい体験を話す高和さん

（鮫川中学校長）

あの時、私は満州国牡丹江国民学校一年生の夏休み中でした。鈴なりに乗った中国人のトラックが数台日本人の住宅街にきて手に手に赤旗をふり口々に何か叫んでおりました。私たちは道路に出て、白い旗を持たせられ万歳を叫んでおりました。赤い旗と白い旗、何の事か判らないでいると近くにいた叔母さんが『日本が戦争に負けたんだよ』と教えてくれました。それから数日たって、ロシア兵の略奪が始まりました。野生の馬が草原を駆けているように見せかけ近くにきてから馬上に姿をあらわすという馬術に長けている兵隊でしたが、情け容赦なく略奪の限りを尽くしました。金品だけでなく大勢の女性もつれ去られ二度と戻っては来ませんでした。あるおばあさんが家族の形見を守って激しく抵抗したため、発砲されたパーンという乾いた銃声の音が五十年たった今でも耳に残って離れません。

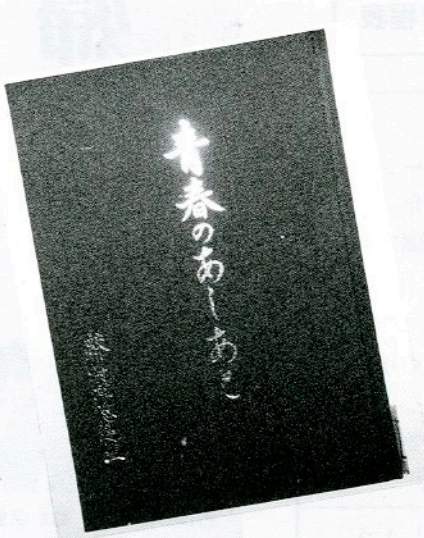
略奪と殺戮が繰り返し行われている最中、日本人と中国人の立場は逆転しました。高台にある日本人の高級住宅には中国人が、粗末なハーモニカ長屋のオンドル付の1DKには日本人が着のみ着のままで移り住みました。健康な男性はすべて兵隊にとられ残っているのは年寄りと女・子どもだけです。

その日から母は、私たち子ども四人を養うために豆腐の行商を始めました。朝まだ暗い内に出かけ、お昼ころもどって来ました。豆腐の入った箱を肩に担ぎ出かけていく後ろ姿が印象に残っています。慣れない重労働は相当こたえたろうと子ども心に感じていました。

終戦当時、生後六か月の弟がおりました。笑顔が可愛くてちいさな体を抱っこしてやるとちいさな指を外にさして戸外に出ることをよく催促しました。しかし、敗戦と父の戦死で収入の道は途絶え、売るものも略奪され母の行商だけでは一家の支えにはなりません。食事といえば粟とコウリャンのおかゆだけです。当然、幼き小さい弟は母乳もなく極度の栄養失調におちいり自分の力で起き上がろうとする気力もなくなりました。それでも時々弱々しく、外をさして外に出たいようなしぐさを見せることがありました。

母は弟の命はそう長くないと思っていたのかも知れません。その日も暗いうちに出かける母は私に水に浸した脱脂綿を弟の口に含ませてやるように言って出かけました。臨終間近い弟の命とは知らずいわれたとおり、弟のそばに添い寝して脱脂綿を口にふくませてやりました。眠っているように見えてもそうしてやると時折唇をピチャピチャとならしておりました。何度かそうしているうちに、私はいつの間にか眠ってしまいました。突然、弟の名を呼んで必死になって揺さぶっている母の大きな声で目が覚めました。弟が死ぬわけがないと思っていた私には大きなショックでした。一歳と八か月大人になれずに死にました。その日の午後、息を引き取った弟の小さな遺体を入れた柩は何の飾りもつけず、粗末な台所の窓から出され、細い丸太を通し、二人の大人の人に担がれ時計の振り子のようにぶらぶらさせて運ばれて行きました。線香もローソクも勿論、弟が元気なころ錆び付いたフライパンで炒った大好きだった大豆も野の花の供えもない寂しい野辺送りでした。それよりも母が自分で売り歩いていた豆腐のほんのひとかけらも弟に食べさせてやることができなかった母の苦悩が今わかりました。

母はそれ以来泣きませんでした。七歳になった私と六歳、三歳の子を連れ女手一つでの日本への地獄の引き揚げが始まったからです。母は戦争のことを口にせず三年前この世を去りました。弟は昭和二十年二月生まれですから、今、生きていれば五十歳です。満州で生まれ、母国日本に帰れなかった可愛そうなあの弟のことを気の毒に思えてなりません。



昭和62年軍人恩給連盟鮫川分会の会員の皆さんが悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにと尊い体験を「青春のあしあと」に記し、発刊されました。歴史民俗資料館にも備えられています。

こんにちは保健婦です


村山保健婦


鈴木保健婦

おかわりありませんか



たんぽぽ教室を開きます

村では、保育所に入所するまでの間、親子で十分遊べる場づくりとして「たんぽぽ教室」を開催しています。

前期（六月～九月）は十三組の参加があって、とても楽しく過ごすことができました。

後期は（十一月～二月）十一月から開催しますので、参加を希望される方は、申込んでください。

▼対象者　鮫川村に住む二歳児（保育所に入所していないお子さん）と母親または、子どもの保育者

平成四年十月二日から平成五年十月一日までに生まれたお子さん

▼申込み　役場住民課保健係

【 たんぽぽ教室日程表 】

	月　日	内　　容
1	11／6〔月〕	・開講式 ・オリエンテーション ・スタッフ紹介 ・ダンボール、新聞紙で遊ぼう ・茶話会
2	11／21〔火〕	・クッキーづくり
3	12／19〔火〕	・身近なもので遊ぼう ・〔体育遊具〕
4	1／24〔水〕	・お散歩しましょう ・みんなでカレーを食べよう
5	2／14〔水〕	・お外で遊ぼう〔雪遊び〕 ・閉講式
実施場所		山村開発センター（1階和室）

風疹・二種混合の予防接種を受ける日が増えました

予防接種法が変わり、平成七年四月から保護者の理解のもとに個別接種を中心に実施しています。

東白川郡内では、接種を受ける人の体調の良い日に、かかりつけの医療機関で接種を受けられるような体制（個別接種）を整えてきましたが、前年度に比べると、接種率が大幅にダウンしているのが現状です。

予防接種法が変わっても、予防接種の必要性は変わりません。村診療所では、接種日を増やしましたので、接種内容を十分に理解のうえ、希望される方は電話予約をして接種を受けてください。

AIDS（エイズ）に関することは

棚倉保健所にご相談ください

棚倉保健所では、ＡＩＤＳ（後天性免疫不全症候群）の相談窓口を設置し、予防と正しい知識の普及に務めています。

ＡＩＤＳ（エイズ）に関するお悩みのある方は、棚倉保健所へ相談にお越しください。

※相談日

毎週月曜日～金曜日

※ＡＩＤＳ抗体検査日

毎月第二、四火曜日

（電話などで予約してください）

※費用　無料

あなたの地域の保健推進員です

シリーズ6
西山区



斎藤　春子
（鐘撞堂、大久保、落合、横座、吉合担当）

一年間を振り返って推進員の仕事の重さを感じました。今年度は、いろいろな活動に出席しみなさんと一緒に活動していきたいと思います。

保健推進員になって２年目になりました。お年寄りや子どものこと、病気や栄養のことなど、自分自身のことも含めて何かと心にかかることが多くなりました。特別なことはできませんが、地域の皆さんの協力を得ながらつとめていきたいと思います。



関根キヌ子
（追木、沼ノ沢、大平、余所内、大沢担当）



関根　キチ
（戸倉、発地岡、赤柴、香田、香ノ目担当）

今年度も皆さん方と一緒に明るく思いやりのある地域活動をしていきたいと思います。推進員の責任の重さを感じています。

何をやるにしても、支部の推進員は一つの心になって協力しなければならないと思います。方部役員さんに従って一生懸命やっていきたいと思います。



芳賀　芳江
（押野、宝木、鍛冶平、岩野草担当）



國井小夜子
（余所内、大沢、水口、田中、土路部担当）

一年目は思うような活動ができませんでした。先輩の皆さんに助けていただきながら地域の健康づくりに頑張りたいと思います。

推進員になって勉強になり何をやるにしても責任者をとおして地域の仕事をやっていきたいです。



緑川千代子
（折戸、後折戸、沢尻担当）



〈 予防接種接種状況 〉

		風　疹	二種混合	日本脳炎
小学校	対象者	８３人	８０人	１５７人
	接種者	３１人	１４人	６８人
	接種率	37.3％	17.5％	43.3％
中学校	対象者	２５５人		９０人
	接種者	１５人		１５人
	接種率	６％		16.7％
乳幼児	対象者	３３２人		
	接種者	１５人		
	接種率	５％		

（平成７年４月１日～平成７年９月30日）
※ 平成６年度はほぼ全員接種を受けています
（乳幼児を除く）

〈診療所の予防接種日が増えました〉

予防接種名	日		程		
風　疹	11月20日(月)	11月21日(火)	11月22日(水)	11月24日(金)	11月25日(土)
二種混合	11月11日(土)	11月16日(木)	平　日　接種時間　午後１：00～午後５：00 土曜日　接種時間　午前９：00～正午		

※ 乳幼児を除く



※秘密は厳守します
保健所外にもれることは絶体にありません。ご安心ください。

※詳しくは棚倉保健所健康課（☎三三－一二四一）にお尋ねください。

鮫川村チーム

ふくしま駅伝

11月19日午前8時スタート

START 8:00白河総合運動公園

フランスベット東北工場前

運動公園入口

泉崎村役場前

矢吹町役場前

鏡石町鳥見山
陸上競技場

須賀川市役所前

日本全薬工業㈱前

郡山総合体育館前

行健小学校内

日和田明和工業前

本宮橋南

二本松市役所内

陵中学校前

大学構内守衛室前

前

GOAL 全15区間 102.5km



コーチ　鈴木　芳保さん
（会社員）



団長　生方　利夫さん
（体育協会長）



選手　矢吹　清美さん
（陸上自衛隊）



監督　鷲野谷重一さん
（会社員）



選手　岡部　直三さん
（会社員）



コーチ　北條伊佐美さん
（会社員）



選手　中川西浩二さん
（会社員）



コーチ　角田　英明さん
（鮫川中教諭）



選手　石井　貴大さん
（鮫川中　3年）



選手　鈴木　　隆さん
（棚倉高　1年）



選手　矢吹　祐二さん
（白河高　1年）



選手　円井　義人さん
（東白農商鮫川分校1年）



コーチ　舟木　勝弥さん
（会社員）

がんばれ！



選手　北條ひとみさん
（鮫川中　２年）



選手　須藤　勝広さん
（清陵情報高　２年）



選手　我妻由美子さん
（清陵情報高　３年）



選手　國井　靖和さん
（鮫川中　２年）



選手　矢吹　博子さん
（学法石川高　２年）



選手　舟木　副善さん
（田村高　１年）



選手　須藤千恵子さん
（鮫川中　１年）



選手　岡部　愛章さん
（棚倉高　１年）



選手　白坂恵美子さん
（鮫川中　３年）



選手　根本　幸治さん
（東白農商鮫川分校　１年）



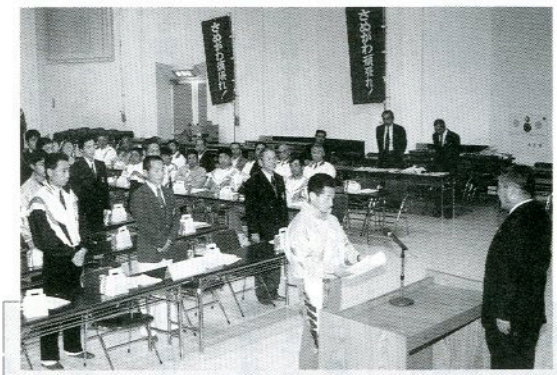
選手　須藤　秀紀さん
（棚倉高　１年）



選手　坂本　太一さん
（鮫川中　３年）



選手　前田　雅文さん
（鮫川中　３年）



鮫川村チームの結団式は、10月13日開発センターで行われました。団旗が芳賀本部長から生方団長に手渡され、選手を代表して矢吹清美さん（陸上自衛隊福島駐屯地勤務）が「鮫川村の代表として精いっぱい走ります」と力強く決意を述べ上位入賞を目指し、健闘を誓いあいました。今後は、記録会やコース試走などを行い、大会に向け練習に励んでいきます。

応援をお願いします

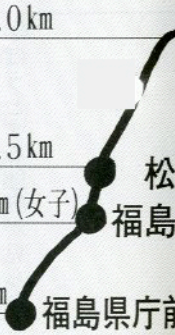
ふるさとのランナーがタスキをつないで、みちのく路を縦断する「第七回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」が十一月十九日、白河・福島間で行われます。

鮫川村チームは、昨年総合で二十七位、村の部四位入賞と堂々の成績をおさめました。

今年の大会には、昨年より一チーム少ない八十八市町村が参加し、白河総合運動公園を午前八時にスタートし、ゴールの福島県庁前までの一〇二・五キロメートルで争われます。

村民のみなさんのあたたかいご声援をお願いします。

第１区　3.9km（女子）
第２区　3.3km(中学女子)
第３区　8.6km
第４区　8.8km
第５区　7.3km
第６区　6.4km
第７区　8.1km
第８区　5.4km(中学男子)
第９区　5.2km(中学男子)
第10区　3.9km(女子)
第11区　8.5km
第12区　10.0km
第13区　10.5km
第14区　3.8km(女子)
第15区　8.8km



高齢者総合福祉センターの職員を募集します

鮫川村社会福祉協議会では、平成八年四月開所予定の鮫川村高齢者総合福祉センターの職員を次により募集します。

一　職種及び採用人員

※生活指導員　一人
（社会福祉事業法による社会福祉主事の資格を有する方）

※社会福祉士または介護福祉士　一人
（社会福祉士及び介護福祉士法による資格を有する方）

※調理員　一人
（調理師法による資格を有する方）

※運転手兼介助員　一人
（大型一種免許を有する方）

※寮母　一人

※介助員　一人

※宿直員　二人
（隔日で夜間のみ勤務）

二　受験資格

㈠昭和二十一年四月二日から昭和五十三年四月一日までに生まれた方（学歴は問いません）

㈡資格を必要とする職種では資格を持っているかまたは、平成八年五月まで取得見込みのある方

三　受験手続及び受付期間

㈠申込用紙は、鮫川村社会福祉協議会（役場住民課内）で交付します。

㈡受験希望者は、平成七年十一月二十四日までに申込書に必要事項を記入して鮫川村社会福祉協議会（役場住民課内）に提出してください。

郵便による申込書提出は、十一月二十四日までの消印のあるものに限り受け付けます。

四　試験の期日などについては後日受験申込者に通知します。

老人福祉施設「高齢者総合福祉センター」の愛称を応募ください

うるおいとやすらぎのある福祉の拠点として、「高齢者生活福祉センター」を平成8年4月開所を目指して建築中です。デイサービスセンター、ショートステイ・在宅介護支援センター、高齢者生活福祉センターの4つの機能を備え、地域のお年寄りが気軽に利用でき、住民の皆さんに親しまれる施設としてふさわしい愛称を募集します。11月24日までに役場住民課に応募ください。

人権擁護委員に
緑川　正昭さん



人権擁護委員として緑川正昭さん（赤坂中野字道少田）に10月15日付で法務大臣から委嘱状が交付されました。

村では、緑川さんのほかに青戸彦磨さんが委嘱されています。

人権擁護委員は、人権思想の普及、高揚と困りごと、もめごとでお悩みの方の相談に応じますのでお気軽にご相談ください。

相談は無料で秘密は守られます。

青戸彦磨さん
富田字前沼　☎49-2325

緑川正昭さん
赤坂中野字道少田　☎49-2106

— シリーズ ③ —

基礎学力向上をめざして

十月二十五日、鮫川中学校で鮫川村小中学校基礎学力向上ネットワークプラン推進事業の一環として第二回学習指導研修会が開催されました。当日は国語数学、英語の三教科の授業を行い、村内各小学校の推進委員の先生方に参観していただきました。授業の様子や参観された先生方の感想を交えてお知らせします。

国語科では「読む、書く、調べる」の国語の基礎基本を中心とした授業でした。生徒たちはわからないことについて自主的に学ぼうとする態度が見られ、大変良い雰囲気の中で進められました。また、意欲的に手をあげて発表する生徒が多く活発な授業が行われました。

数学科では先生二人による授業が行われました。チームティーチングと言い、先生がより多くの生徒に関われる方法で、一人ひとりの実態に応じた指導が行われました。また、意欲的に手をあげて答えるなど、活発で大変良い雰囲気の授業でした。

英語科では一年生の授業でした。中学校に入学して初めて英語を学ぶようになったわけですが、とても楽しそうに学習して

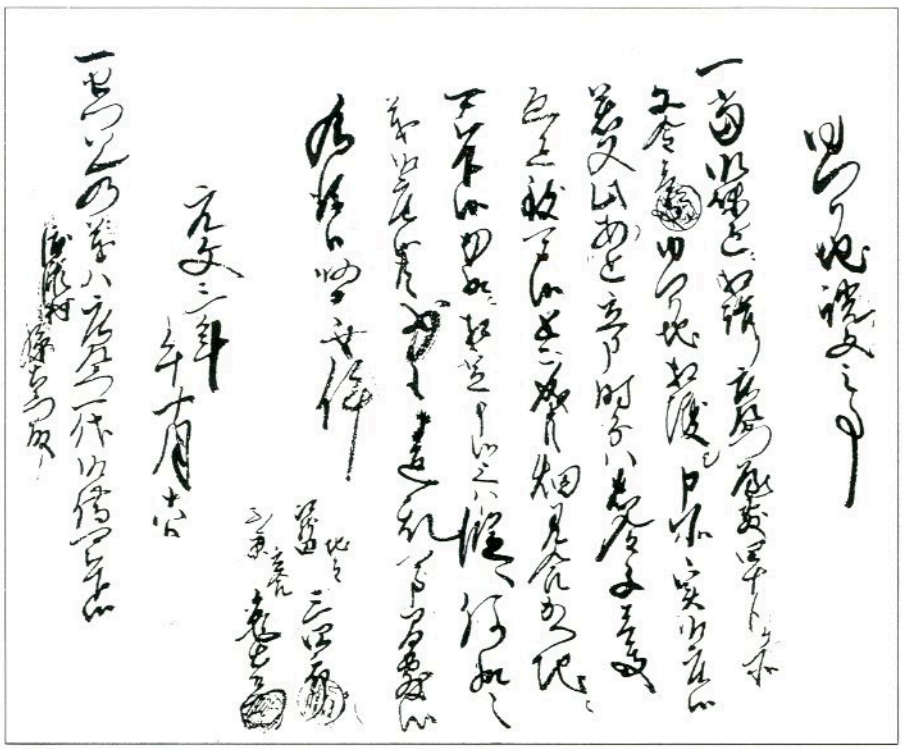


史・資料を探る

村史編さん室

元文三年（一七三八）

ゆづり地証文の事（渡瀬・赤坂博男家文書）



（文書読み下し）

ゆづり地証文の事

一　当御味進金（未進金）に相詰り、庄右衛門屋敷四十歩箇所に金壱両ゆづり地相渡し申す所実（正）に御座候、若しまた此あと立ち申す時分は、右金子壱両返上致し申べく候、どこなりとも畑見合いかえ地に下さるべく候、かように相定め申し候上は、たとえ何よの義御座候とも少しも違乱申すべくまじく候、後日の為仍て件の如し

地主
江竜田　三四郎㊞
立会人
ふく原　亀右衛門㊞

元文三年午十月十八日

一　せついん（雪穏）の義は庄右衛門一代御借（貸）し下さるべく候

渡瀬村
孫右衛門殿

未進金とは、年貢の滞り分である。それが壱両にも及んだということは、初納、二納、三納と納める取立に際しておそらくこの屋敷が三四郎への書入（抵当）となっていたものと思われます。

庄右衛門は、十月上納に当たって差し詰り、屋敷地を渡して当てたものです。

これによって庄右衛門は住むところを失うため「どこなりとも畑見合いかえ地」を都合してもらうことを取り決めたこと、さらに困窮から脱して立ちゆくようになった暁は金壱両を返上することのほか、一代に限っての便所の貸与の附帯事項を証文としたことを村役人孫右衛門へ届け出た文書です。

三四郎は江竜田の住人、ふく原（福原）の亀右衛門が立合人となりました。

元文三年は一七三八年、今からざっと二百六十年以前、日本全史によれば八代将軍吉宗五十六歳の年に当たります。NHKテレビ放映中の「吉宗」の時代幕府財政困難の中、倹約令と合わせて諸藩への上米が加増されたので、年貢の取り立てはさらに厳しさを加え、凶作、天災、疫病の流行と悪条件が重なって一揆多発となりました。

吉宗の窮地に立ちいたること、ドラマの進行にも見られるとおりでした。

なお、「雪穏」については、これが人肥として極めて貴重なものであったことは「村明細書上」などにもみられます。

「御年貢金に相詰り」「御年貢上納に差支え」などとした金子借用証文は、村内の文書に数多く残されているほか、この文書のような「ゆづり地証文」も存在します。

いました。授業では生徒の実態に応じた内容が準備され、きめ細かい授業が行われました。また、英語指導助手のローラ先生との息もぴったりで、生徒はとても楽しそうでした。授業終子後、教科ごとに別れて基礎学力の向上について話し合い、今後、この会が進むべき方向性や小・中学校の教科指導における連携の重要さが確認でき、大変有意義な研修会となりました。

お知らせ

広報にあなたの写真が出ていたらご連絡ください。さしあげます。

役　場　☎49－3111
鮫川村大字赤坂中野字新宿39－5

パスポートが変わります
十年旅券が加わります

今年十一月一日から旅券法の改正で、パスポートの種類が増えることになりました。

内容は、現行の五年間有効なものに十年間有効なものが加わり、五年間有効なものに子ども料金（十二歳未満対象）が新設されます。また、十年パスポートは査証のページ数が増え、便利になります。

さらに、親のパスポートに子どもの名前を加える現行の併記の制度は廃止されます。どのパスポートを取得するかは申請者の選択になります。なお、内容などでご不明の点があれば、福島県庁パスポート窓口までお問い合わせください。

（☎〇二四五－二一－七九九九）

10年旅券		5年旅券	
エンジ色	サイズ 縦 125㎜ 横 88㎜	濃紺色	
20歳以上	対象年齢	子ども（12歳未満）	12歳以上
15,000円 （13,000円 2,000円）	手数料 （印紙 証紙）	5,000円 （3,000円 2,000円）	10,000円 （8,000円 2,000円）

※注意事項

▽併記の制度が廃止になります。（十一月一日以前に併記をした旅券は有効期間内で使用できます。）

▽申請案内、申請用紙は変更になります。（現在使用されているものは使用できません。）

▽年齢に関するものは、申請日時点での満年齢です。

10・11月健康カレンダー

種別	実施日時・場所	対象者
4か月児健康診査	11月15日(水) 午後1：00～1：30 棚倉保健所	平成7年6月・7月生まれのうち4か月になったお子さん 母子健康手帳、バスタオル持参
母子健康手帳交付日	11月16日(木) 午前9：00～9：10 開発センター	妊娠と診断された方本人 印鑑持参
三種混合予防接種	11月17日(金) 午後1：30～3：00 村診療所	Ⅰ期初回・追加　3か月～7歳6か月のお子さん Ⅱ期　小学校6年生 母子健康手帳、予診票持参
乳児相談	12月6日(水) 午後1：00～1：30 開発センター	平成7年3月から6月に生まれたお子さん 母子健康手帳持参
ポリオ生ワクチン投与	12月8日(金) 午後1：30～2：00 開発センター	3か月～7歳6か月のお子さん 母子健康手帳、予診票持参
4か月児健康診査	12月13日(水) 午後1：00～1：30 棚倉保健所	平成7年7月・8月生まれのうち4か月になったお子さん 母子健康手帳、バスタオル持参

村税完納継続39年達成にご協力を

鮫川村は、皆さんのご協力により、村税完納継続三十八年という輝かしい記録を更新中です。この成績をさらに伸ばし、豊かな自然を生かした住みよい郷土をつくるため、十二月一日から二十五日までを「村税完納推進月間」と定め、村税の完納運動を展開しますので、みなさんのご協力をお願いします。

あなたの情熱を開発途上国のために

あなたの技術・経験・情熱を開発途上国で生かしてみませんか。ただいま、青年海外協力隊員を募集中です。

※応募資格　二十歳から三十九歳までの日本国籍をもつ方

※募集期限　平成七年十一月三十日（木）まで

※選考試験　一次…筆記試験（技術・英語・協力隊員適性テスト）

※派遣期間　原則として二年間

※派遣職種　農林水産・加工・保守操作・土木建築・保健衛生・教育文化・スポーツの七部門、約百六十種

※待遇等　現地生活費、任国までの往復航空運賃など、必要経費を事務局が負担します。

※問い合わせ先　福島県庁国際課（☎〇二四五－二一－七一八三）



ふくしま国体のハンドボール（成年男子二部）競技は石川町で開催され、福島県チームが見事優勝しました。本田隆さん（鮫川中教員）はゴールキーパーとして堅い守りをみせ、大活躍しました。



さつまいも掘りから



屋外給食から

福島県の最低賃金が決まりました

平成7年10月1日から

1日　4,463円

〔時間給労働者〕

1時間　558円

★この最低賃金は、福島県内の事業場で使用されるすべての労働者（パートタイマー、アルバイトなどを含む）に適用されます。

（職種により、若干異なるものもあります。詳しくは、白河労働基準監督署☎〇二四八－二四－一三九一にお問い合わせください）

退職金づくりは中小企業退職金共済制度で

中小企業で退職金制度を設けたい場合、安全・確実・有利な国の〝中小企業退職金共済制度〟（＝中退金制度）をご利用になれば、手軽に設けられます。

そのうえ、新しくこの中退金制度に加入した企業には、掛金の一部を国が二年間助成します。

平成七年十二月（一部は平成八年四月）から制度が新しくなります。

制度についてのお問い合わせは、白河公共職業安定所（☎〇二四八－二四－一二五六）白河労働基準監督署（☎〇二四八－二四－一三九一）にお尋ねください。

塙セリ市場だより（平成七年十月三日）

性別	頭数	取引価格 最高	取引価格 最低	取引価格 平均	平均体重	平均日齢	1kg当り単価
	頭	円	円	円	kg	日	円
雌	93	424,360	189,520	298,102	270	314.8	1,183.5
去勢	106	590,190	218,360	401,408	287	301.1	1,397
計	199			353,129	279		1,264.6

10月市場の動向

10月の市場は、上場頭数199頭（内鮫川村分112頭）で、前回より38頭少なく、平均価格は去勢が401,408円、雌が298,102円、全体平均が353,129円と、８月市場より約34,000円高い取引となりました。

前年同月と比較すると70,000円高い取引で東平茂の産子の人気が高いことと、全国的に頭数が少なくなっていることが価格に影響していると思われます。

国税だより

税を知る週間

国や地方公共団体は、私たち国民が豊かで安定した暮らしができるように、いろいろな活動を行っています。税金は、そのための大切な財源です。

税務署では、この期間中、広く国民の皆さんに税の意義や役割について理解していただけるよう、座談会の開催、税に関する資料の展示、税務相談など各種の行事を行います。

この機会に、あなたも税金の仕組みや使いみちについて考えてみませんか。

今月の納付

固定資産税　4期分
国民健康保険税　6期分
国民年金保険料　11月分
納期限　11月27日

寄附ありがとうございました

社会福祉事業のために

○薄ケ久保　高木　定雄様
○大根屋敷　佐久間榮一様
○京都府　菊地　清栄様
○余所内　関根啓太郎様
○吉合　斉藤　一郎様
○新宿　穂積　光位様

心配ごと行政相談

11月20日(月)
午前10時～午後3時
山村開発センター

なお、心配ごと相談では午後一時から午後三時までは弁護士が相談を受けますので、ご利用ください。

村のできごと



美しい音楽にうっとり

10月25日　開発センターで生涯学習の一環としてファミリーコンサートが開かれました。アンサンブル・ディヴェルターズを迎え、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、クラリネット、ピアノのアンサンブルで、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「チゴイネルワイゼン」などの名曲やアニメ「魔女の宅急便」や「天空の城ラピュタ」の主題歌なども演奏されました。また演奏に合わせ「小さい秋みつけた」を入場者全員で合唱し、家族そろって楽しめるコンサートとなりました。



鮫川流域にヤマメ放流

10月16日　鮫川村水産資源保護協会と鮫川漁業協同組合によるヤマメの放流が鮫川流域内の四十か所で行われました。体長十五～二十㌢に育った成魚と稚魚合五十㌔、約二千五百尾が放流されました。鮫川流域では毎年稚魚一回、成魚が二回放流され、水産資源の保護に努めています。



とても楽しい屋外給食

10月13日　学校給食センターが、子どもたちに屋外で楽しく給食を食べてもらおうと、毎年行っている屋外給食が行われました。この日鮫川幼稚園では、墓地石山公園に足を伸ばし遊具で遊んだあと、給食のお弁当をひろげ、秋空の下で楽しく、おいしい給食の時間を過ごしました。

フォトルポ



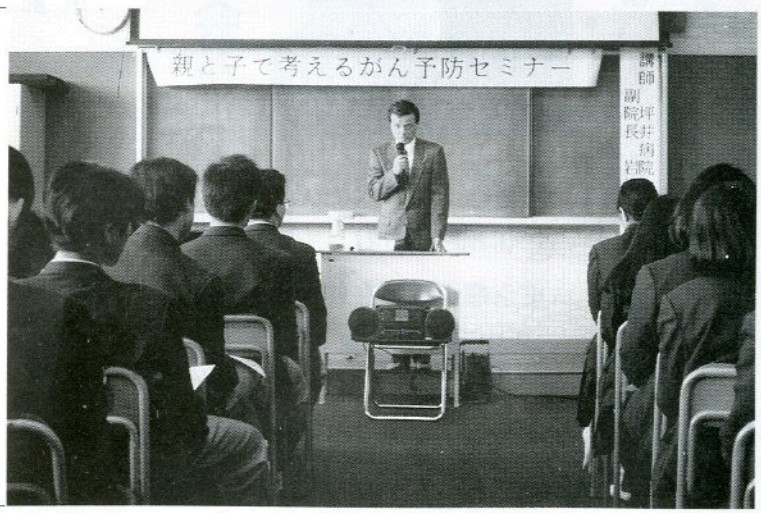
夜間の外出も安心

10月17日　交通安全協会鮫川支部から社会学級生二百五十人の皆さんに反射腕章が贈られました。反射腕章は夜間の外出時に車などのライトが当たると反射して歩行者の存在を知らせるもので、お年寄りの皆さんに「夜間の外出も安心」と喜ばれています。



おいしいおいもだよ！

10月24日　西山児童館でさつまいも堀りが行われました。子どもたちが〝おいしいおいもになーれ〟と願いを込めて植えたさつまいもが大根のように四十～五十センチほどに大きく育ち、もみじのような小さな手でよいしょ、よいしょと掘り出し、子どもたちは大喜び、早速、焼きいもにして秋の味覚を楽しみました。

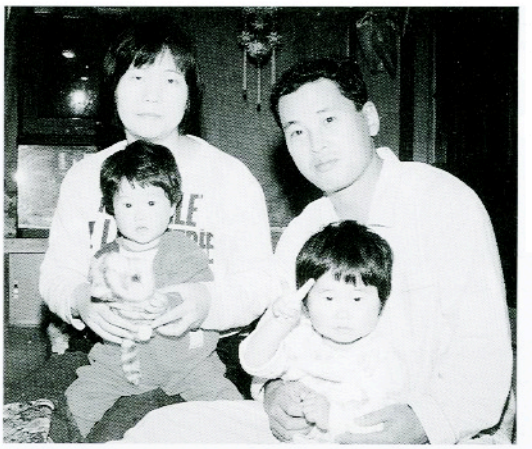


予防が大事です

10月13日　棚倉保健所主催の「親と子で考えるがん予防セミナー」が東白農商高鮫川分校で行われました。講師の郡山市坪井病院岩波先生の専門が肺がんであることと、高校生が対象であることから、喫煙と肺がんについて話されました。鮫川分校の生徒・先生方百十人のほかに三十一人の住民の方がスライドで患部の映像を見たり、郡内のがんの現状などの資料もあり、がんについての認識が深められたようです。

ふれあいひろば

ふたりでバトンタッチ♡♡54



高坂浩幸♥由美子さん（赤坂西野字上）

浩幸さんは上の高坂幸男さんの長男、由美子さんは三春町の出身で平成四年四月十九日に結婚式を挙げました。

郡山南郵便局に勤めていた浩幸さんの知人に、三春町から郡山市内の会社に通勤していた由美子さんを紹介され、一年三か月交際後ゴールインしました。

浩幸さんは由美子さんの「素直な性格」に、由美子さんは浩幸さんの「やさしく、頼れるところ」にひかれたそうです。

育てに専念しています。

「笑顔の絶えない、明るい家庭にしたい」というお二人。

どうぞいつまでもお幸せに。

長女麻耶ちゃん（二歳・写真右）と二女里絵ちゃん（一歳・左）の二人のお子さんに恵まれ、もう一人ほしいというお二人。

現在、浩幸さんは、鮫川郵便局に勤め、由美子さんは子

次は

高坂隆之・みゆきさんに

バトンタッチ

文芸

俳句

石仏の眉を吊りあげ秋の風　福島　中井　恒峯
いなご翅ぶ畦に腰かけ茶の香り　反田　小山田清哲
美術館出て秋日濃き道戻る　いわき　金沢　暁舟
人形の家コスモスの風踊る　道少田　山本　朗史
古筆で種子の名記す母の秋　白河　矢部　正子
コスモスの涙となれり霧の雨　前沼　黒田　寿香
ようやくに秋晴れ朝の草光る　二反田　大平　太平
玄関の花器に鬼灯そっと挿す　新宿　大池　魚水
栗林実をきらきらと開けて笑む　横座　矢吹　茂
清流の戻りを証す川鳥　押目　北條素人坂
彼岸花つんつん赤き耳を立て　新宿　斉須　信子
あの手この手の雀威しや峡晴るる　道少田　山本五十鈴

短歌

舗装路に紫絨緞敷くがごと今日　楢久保　森　芳子
もこぼるる葛藤の花　中野町　赤坂　朝子
住みなれし邑の人情にしみつ六　本坂　藤田　末光
十年はめぐみの絵巻　わがオペに一睡もせぬらし息子
夫婦その心根に傷も疼かず

東京鮫川会からこんにちは



茨木　勇さん
（旧姓　関根）
東京都大田区在住
西山字大沢出身

第八回うまいもの祭りに参加して

私は昭和二十九年鮫川の里を　きたいと思い、負けず嫌いであ
離れました。とにかく東京で働　ったから努力は惜しみませんで

文化祭にみんなで行こう

11月6日～8日

菊　花　展

農業者トレーニングセンター

11月11日

映　画　会

「耳をすませば」「ジブリ劇場」
開発センター　午後4時～

11月12日

健康まつり

開発センター　午前8時30分～
○試乗・ゲームコーナー○健康チェックコーナー・健康食コーナー○福祉・環境用品展示・相談コーナー○遊々広場コーナー・出店コーナー○婦人会チャリティバザーコーナー

イベントコーナー

午前8時45分～午前10時30分
○さめがわウォーキング大会○宝ひろい輪投げ大会・健康ゲートボール大会○ペットボトルロケット飛ばし大会○アンパンマンショー

健康講演会

講師・落語家林家こん平先生
午前10時30分～
「健康の源は笑いから
ごはんを食べて、元気一杯」

11月11日～13日

展　示

農業者トレーニングセンター
11月11日　午後1時～午後4時30分
11月12日　午前8時30分～午後4時30分
11月13日　午前8時30分～午後2時
○村政写真展・陶芸展・小・中高等学校児童生徒作品展、小・中学校写真展○公民館事業展・郵便局ふれ愛コーナー○生活工夫展○華道展○老人作品展○色紙展○中井恒峯展○火災予防ポスター展○水墨画展○自然の花写真展○一般作品展○ガラス工芸展○米消費拡大展

11月13日

畜産共進会

村民運動場　午前9時～

11月17日

短　歌　会

さぎり荘　午前9時30分～

11月18日

俳　句　会

開発センター　午後0時30分～

11月23日

ふる里文化芸能クラブ発表会

開発センター　午後0時10分～

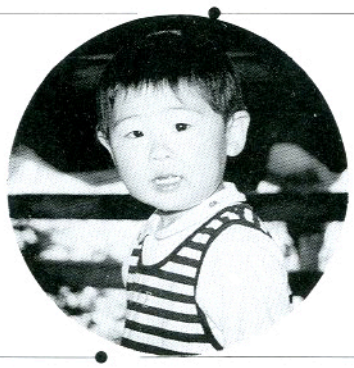
11月26日

シンポジウム"95「新食糧法とわが村の米」

技術指導センター　午後1時30分～

わが家のアイドル

蛭田彩子ちゃん（二歳）



彩ちゃんは、家の中をとても明るく、楽しく、うるさくしてくれます。砂遊びが大好きで、むし歯は一本もありません。これからも健康に成長してください。（おかあさん）

蛭田宏・智子さんの長女

（渡瀬字田苗下）

田苗下　蛭田　浩市
チェーンソーにたちまち切られ倒れゆく樹木は初めて年輪を見せる
名　下　須藤美代子
背戸の辺の藪椿の実に秋日射しみのりの色の紅しづかなる
岩野草　坂本　雪絵
曽孫三人の守りをしている婆なれど母親よりもなつくが甲斐に
本　坂　藤田　初枝
古毛糸ほぐして編めば縁に射す夕日のかげはむらさきの色
沼の沢　本郷　チヨ
大根の畠をみれば首もたげ慈雨に応えて二葉がひらく
大戸中　小松セツ子
東京の空に見えざるという天の川満天星を姉に見せたや
越　虫　星　武
八十年生かされて来しふりむけば悲喜こもごも想い出で来ぬ
酒　垂　石井　カヤ
畑の野菜気になりて一番どりなけば今日も早々起き出でてゆく
江竜田　芳賀　洋郎
妙見の峰よりはるか見渡せば常世耕地の黄金の穂波
田苗下　蛭田　正
秋果ての陽射しあつめて咲き残る松葉牡丹の紅の一叢
本　坂　藤田　韻詞
青空の鹿の角平に人の波今日ひとときの秋を楽しむ
大　塩　鈴木　クニ
団体の炬火のリレーは雨の中力走選手に拍手は止まぬ
官　代　前田　栄美
庭の樫夏は日陰と嬉ばれ冬は陰ると枝切られたり
大　塩　水野　フク
短歌会初めて参加し先輩の言葉ひたすら身に沁みてきく
岫　長　北條　平
四般名呼ぶ行司の声も高らかに草角力に湧く熊野神社は
棚　橋　関根　一好
山深く落人将門炊ぎたる鍋を祀ると祠の古りぬ
大石草　鈴木イミ子
三日後に壊さる家を写さんと娘は八方よりシャッターを切る

した。これが自分の支えでもあったと思います。

いま還暦を迎えて少しは心にゆとりが生まれたのか、世間で聞く自慢話しを他人に聞いてもらえる年になったような気がしてきました。そんな気持ちでわが古里の「第八回うまいもの祭り」に近所仲間を誘ってみようと思い声を掛けてみたところが心あるわが友人がたちまちにして大型バスに満杯になってしまいました。いま村おこしと言う言葉を聞きますが、まさに村を挙げての歓迎には車中の一同から驚きの声が聞こえました。良い天候に恵まれ広大な自然の雰囲気に酔う歓喜と賑わいの中から「もう少しゆっくりしたいねの声が耳に入りました。

うまいもの祭りに参加した友人から鮫川村の広報にだしてくださいと原稿が届きましたのであわせて原稿といたします。

村の発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

村　沢　敏　子

細い山道を行き都会ではあじわうことの出来ないスリルがございました。秋空の下、緑一色に染められた広場でのバーベキュー、日ごろの雑事を一切忘れて大変楽しい一日を過しました。また来年も参加したいと思います。

増　渕　こまの

郷土の筑波の山を望んだ時は何の涙かわからぬ涙が落ちて拭いきれない程でした。やがて鮫川村の目的地に到着し、大勢の方の歓迎を受け、何だか偉くでもなったような気分でした。秋の日は暮れ早くつるべ落しと申します。

銘酒を一本墓前に買いもとめ再び車中の人となりました。



訪ねてみませんか鮫川の30景 ⑲

天狗橋（てんぐばし）



鮫川の上流、赤坂東野字蕨の草地内に長さ7.9メートル、幅4メートル、厚さ1メートルあまりの花こう岩の自然橋が架かっています。「天狗様が橋を架けたようだ」と語り伝えられるところから、天狗橋と名付けられました。周囲はブナ、アカシデなどの落葉広葉樹林帯で、昭和59年6月には県の緑地環境保全地域に、また、ふくしま緑の百景にも選定されています。

ごみは分別して収集日に出しましょう

収集場所	種別	11月	12月
江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩コース	可燃物	2.6.9.13.16 20.27.30	4.7.11.14.18 21.25.28
	不燃物	10.24	8.22
さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地コース	可燃物	2.6.9.13.16 20.27.30	4.7.11.14.18 21.25.28
	不燃物	8.22	6.20
鮫川分校（可燃物木曜のみ）	可燃物	2.6.9.13.16 20.27.30	4.7.11.14.18 21.25.28
鮫川中学校コース	不燃物	9	7.21
関下～越虫～青生野小学校～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口コース	可燃物	1.8.15.22.29	6.13.20.27
	不燃物	8.22	6.20
真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢コース	可燃物	1.8.15.22.29	6.13.20.27
	不燃物	9	7.21
官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜コース	可燃物	1.8.15.22.29	6.13.20.27
	不燃物	10.24	8.22
石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	可燃物	1.8.15.22.29	6.13.20.27
	不燃物	17	15

こちら窓口

お誕生おめでとうございます

住所	赤ちゃんの名前	月/日	保護者
青生野	笹島（ささじま） 望（のぞみ）	9/22	笹島 幸雄

おくやみ申し上げます

住所	亡くなられた方	年齢	世帯主
薄ケ久保	高木 定典	79	高木 定雄
大根屋敷	佐久間 誠	80	佐久間栄一
余所内	関根 啓雄	74	関根啓太郎
巡ケ作	小川 政雄	85	（小川政雄）
吉合	斉藤 武	76	齊藤 一郎

9月21日～10月20日までの届け出

休日のお医者さん

月日(曜)	棚倉町	塙町	石川町
11月3日(金)	あらまちクリニック ☎33-8018	中島医院 ☎43-0373	大竹眼科医院 ☎26-4118
5日(日)	杉山胃腸科外科皮膚科 ☎33-7551	車田病院 ☎43-1019	愛恵会大野診療所 ☎26-2615
12日(日)	和田医院 ☎33-2012	塙厚生病院 ☎43-1145	中島病院 ☎26-3415
19日(日)	勝田医院 ☎33-3008	石川医院 ☎43-0003	原外科医院 ☎26-1423
23日(木)	大木医院 ☎33-2424	—	大野病院 ☎26-1181
26日(日)	東白川中央病院 ☎33-3263	塙厚生病院 ☎43-1145	添田医院 ☎26-2538
12月3日(日)	藤田医院 ☎33-2013	石川医院 ☎43-0003	三瓶胃腸科医院 ☎26-1234

今月の人口（10月1日）

人口	世帯
5,071人（－1）	1,120戸（－2）
男	女
2,511人（－6）	2,560人（＋5）

‖あとがき‖

♥今月は「戦後五十年に語り継ぐ」として戦争を体験された方の話を中心に特集しました。五十年たった今でも記憶に鮮明で、取材で話を聞いているうちに言葉につまることもしばしば。お聞きした貴重な体験をどのように紙面に残そうかと力量不足をあらためて感じました♥「二度と戦争を繰り返してはならない。」そして、このことを戦争を知らない世代に伝えていくことが必要だと思います。戦争は人類最大の惨事なのですから…。（石）